

通木

Komorebi Tsushin

第19号

平成17年1月

つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達郡月舘町大字下手渡字寺窪7

TEL024 (573) 3888 FAX024 (573) 3887

E-mail: hanakobo@safins.ne.jp

休館日/毎月第1、第3次曜日(休館日の前日は17時まで営業)

つきだて花工房ホームページ <http://odehime.or.jp/hanakobo>

つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりとやさしさを持ち続ける皆様の公共施設をめざします。

信もれ日

花のアルバム

アルバムの
19ページ
プリムラ

冬は雪
いつもより
静まりかえった日の朝は
決まってお外は 銀世界
ゆらゆらと 舞い落ちる雪たちは
どれくらい時間をかけて
天から降りてくるのでしょうか



プリムラジュリアン
コーカサス原産
本種にポリアンサとフルガリスを
交雑して誕生したもの

冬の日溜まりはほかほかと温かく、心がほぐされていくのを感じます。玄関先のミニガーデンの花たちも北風に負けず明るく咲いてお客様をお出迎え。「ようこそ、寒い中を花工房へ、ありがとう!」と、語りかけているようです。

冬花壇を代表するパンジー、ピオラ、ノースポールに今年はシクラメンコウムが仲間入りしました。

「ここに、天使が舞い降りて花を咲かせたというスノードロップが加わ



日溜まりのミニガーデンがぬくもりをくれる

れば「ファエクト!」などと花に向かつておしゃべりをしてしまうのは、二番手前に咲いているサクラソウに会話を弾ませるパワーが潜むと言われているからでしょうか。

最初の花

春を告げる花、サクラソウ。4月ごろ開花する日本サクラソウに対して、プリムラと呼ばれる西洋サクラソウは、冬枯れの庭にいち早く咲く可愛らしい花です。

プリムラの名はラテン語の「プリマ」の縮小形で、「一番の、最初の」という

意味。新春にもびつたりのお花です。ポリアンサ・ジュリアン・マラコイデス・オブコニカなど種類も豊富で彩りも鮮やか。小さな素焼きの鉢にお気に入りのプリムラを植えこみ、身近において楽しんでください。気分を明るくする花セラピーには、打つつけのひと花です。

吉兆招福

お正月に縁起をかついで飲むお茶といえば「福茶」。昆布、梅干、黒豆などを入れ、新年のめでたさと幸福を願ってお茶を服します。京都では元旦の朝に汲んだ若水でお茶を入れ、朝の1回だけ服す「服茶」の風習がこれにあたります。

福茶には欠かせない梅干は、その塩気がお茶の味に奥行きを出し、黒豆は今年1年をまめに暮らせますようにという願いが込められ、結び昆布で縁起をかつぎます。

水道の普及で若水汲みの風習は消えかけてしまいましたが、1年に1度、水への感謝の意を込めながら、熱いお湯を注ぎ薫り高い福茶を飲むと、さまざまなことにも感謝の意が沸いてくるかもしれません。



福茶: 福を招き悪疫を祓うといわれる

2005年つきだて花工房に パートナー誕生

もっともっど
heart
to
heart

もっともっど
face
to
face



完成イメージ図

平成8年8月8日
宿泊施設つきだて花工房がオープン。
それまで月館町を知らなかった人が
月館町を訪ねてくれるようになりました。

福島県月館町
人口4600人の
小さな田舎町には
澄んだ空気、おいしい水、
農を営む大地があります。
さまざまな生きものが住む雑木林、
満天の星空、月あかり
それから…
人の温もりがあります。

月館町にまた“新しい風”が吹き始めます!

きつと
ひとりひとりの心の中に
ひまわりに負けない花が咲く。
そう信じながら
交流館工事は着々と進行中です。

「交流館」はみなさんのステージ
ステージのドアを開け、
舞台を演じるのは
この町に住むひとりひとり
この町を訪れてくださるみなさん。

そして
もっともっど元気になるために
この春月館町に「交流館」が誕生します。
太陽の花ひまわりが、大輪の花を咲かした
つきだて花工房のあの場所に、
交流館が産声をあげるのは4月です。

この町にも、
元氣と勇氣が湧いてきました。



都会からのお客様は口々に
「自然がいっぱい、空気がおいしい!」
と、言つて喜んでくれます。
「ご飯が光つてる、お野菜が甘い!」
と、感動してくれます。
日頃気づかずにいたことが
本当はとても幸せなこと…
ということを、教えてくれたのは
この町を訪ねてくれた人たちでした。

ヤマ学校

年間を通して里山の四季を楽しみます。驚きあり、発見あり、初体験あり…。ドキドキ、ワクワクのプログラムが満載です。



木工体験

自然の素材が想像力と工夫でみごとなアートに生まれ変わります。



つきだて花工房 と 交流館

共に歩む 道

ノラ学校

貸し農園を通して農のある暮らし、食へのこだわりを追求、実践します。



地産地消

生産者と顔が見える関係がうれしいです。地元の食材を愛情込めて調理します。



予科練20期会の皆さま

昭和19年の写真
(中央)遠藤五六町長
当時16歳

「七つボタンは桜に鑑」…この歌詞を初めて知ったのは、過日予科練20期会の皆さまがお泊まりくださった時。昭和18年の流行歌「若鷲の歌」で、作曲者は福島市出身の古閑裕而さんだった。この歌を聴いて多くの少年達が予科練に入隊されたらしい。
わが町現職の遠藤町長が予科練生であったこともあり、お泊りいただく皆さまは、すでにお馴染みの面々。再会を喜び、2枚の旗を掲げて記念写真を撮った。
予科練、正しくは「海軍飛行予科練習生（少年航空隊）」は昭和5年に発足、昭和20年の終戦を迎えるまでにおよそ24万人の若者が志願入隊し、卒業生の約8割、1万8564名が桜花と散られた…。その多くは特別攻撃（特攻）隊員。戦争を知らない私たちには想像がつかない世界であり、ただただ胸が痛い。茨城県阿見町に、予科練連記念館「雄翔館」がある。
新しい年が明けた。今年は終戦60周年にあたる年でもある…。

シリーズ それぞれの時代

ご案内

- おすすめ新年会コース ●ゴマ豚すき鍋コース ¥3,000
ハーブの香りでリラックス ●入浴…10:00~18:00 大人300円 小学生150円
陽だまりコースが好評 ●個室休憩…11:00~15:00 (1日4組様まで)
月々のおすすめランチが人気 ●ランチ営業…11:30~13:30 (ラストオーダー)

秋の夜長の小さな朗読会#3

平成16年11月8日 月曜日 P.M.7時開演

●朗読作品 葉っぱのフレディ 他

朗読/島岡安芸和

音楽/チェロ:古後公隆 ピアノ:シゲ山本

演出/松永さち代

1部

イントロダクション

ピアノとチェロによる演奏

●つぎだて花工房リーディングアラウドの会のメンバーによる朗読

2部

●島岡安芸和による朗読、3作品

P.M.8時30分終演



古後公隆作曲「葉っぱのフレディ」

オリジナルCD発売中 ¥1,200

つぎだて花工房のフロントでお求めください。



「月に一度のこの時間がとっても楽しみ!」という、第1期生のみなさん。秋の夜長の小さな朗読会では新見南吉作「てぶくろを買いに」を朗読しました。

●お客様からのメッセージ

今年、大切な人を亡くしました。人生最大の喪失感:生きるつて大変だ:と思う毎日でした。朗読会、良かったです。あの後

何度も葉っぱのフレディを読み返しています。少しずつ気持ちが癒されて、勇気も湧いてきたような気がします。いのちは永遠に生きています。その「は」今、生きているこの時を、大切に生きるべきだと、少しずつ自分にいきかせている今日この頃です。(平成16年11月)

●スタッフの声

島岡安芸和さんつて、本当に優しく、いい人だと思いました。「朗読して、あつ泣いてる人がいる:うと思つたら僕まで泣きそうになつちやつて、必死にこらえて朗読したんだ。」つて...。そんな正直で心優しい島岡さんを、人間として、とても尊敬してしまいました。来年も是非お会いしたいです。

「リーディングアラウドの会」
会員募集中

私たちと一緒に声を出して本を読んでみませんか!
お稽古は毎月1回、午後7時~8時30分まで
新年の初稽古は1月24日(月)です。
入会お申込み、お問い合わせはつぎだて花工房フロントまで

秋山料理長の”旬を楽しむ“

冬のひとしな

冬野菜の
和風クリーム煮
(4人前)



●食材[A]

蕪...小口切り12~16切 人参...小口切り適量(竹串が通る位下煮しておく) 白菜...ざく切り適量
チンゲン菜...ざく切り適量 コンニャク...小口切り適量

●調味料[B]

豆乳...200cc 牛乳...200cc 出し汁...200cc(ほんだしでも可) 白味噌...50cc うす口醤油...20cc 味醂...30cc 砂糖...適量(お好みで) スライスベーコン(鶏肉でも良)...150g 白コショウ...少々

●作り方

- ① 調味料で食材を10分位弱火で焼き冷めるまで含ませておく。
- ② 冷めたら食材を一時引き上げる。
- ③ Bを半分くらいまで中火で煮詰める。
- ④ ②で引き上げた食材をもどし温めてできあがり!

◎ポイント

煮詰める時は必ず弱火か中火ですること(沸騰させない)。強火で煮ると豆乳と牛乳が分離してしまいます。ご注意ください!

ワインがもっと好きになる
ソムリエ々木篤さんをお迎えして
ワイン講習会を開催



ワインの上手な選び方、飲み方、テーブルマナー、お料理との相性などを教えていただきながらの、アットホームな講習会となりました。

種を蒔く人々

—やまゆりの咲く里山を残したいという想い—

平成16年12月15日は風も無くおだやかな日となりました。この日、やまゆりの里を愛する有志のみなさんによって、つぎだて花工房の周辺に約100個のやまゆりの球根が植えられました。球根は5年前に種を蒔き丹精込めて育てられたもので、今年の夏には芳しい香りと共に訪れるお客様の目を楽しませてくれることと思います。この熱い想いを次世代にも伝え、美しい山百合の里を残したい...と、痛切に感じた1日でした。そして祈る気持ちには...イノシシさん、モグラさん、どうも球根を食べないで!



はみだしコーナー

花工房BGM ●ガイアシンフォニー 第4番 サウンドトラック
花工房ライブラリー ●世界がもし100人の村だったら たべもの編

楽・百人一首(冬)

君がため 春の野に出て 若菜つむ わが衣手に 雪は降りつつ 光孝天皇
昔の貴族は贈り物に和歌を添えたそうです。若い皇子が若菜を摘んである人に贈ったのでしょうか。

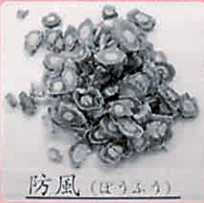
家族みんなの健康を願う

お屠蘇 まめ辞典

保存版

一年の邪気を払い無病息災を願う元旦の飲物、お屠蘇。9世紀に中国から伝わった屠蘇散は元旦の宮中儀式に用いられ、以後江戸時代に新年の風習として一般にも定着したものです。

●儀式
元旦又は3ヶ日に衣装を正し東方を拝み年少者から順に飲みます。



防風 (ほうふう)

発汗作用と去痰の効能あり。風邪薬という屠蘇の由来を受け継いでいる。



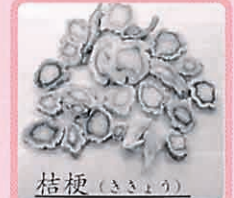
百朮 (びやくじゆつ)

キク科、オケラの根茎。利尿、発汗の効能。量により血圧上昇、降下作用。



陳皮 (ちんぴ)

みかんの皮、疲労、神経痛、冷え、腰痛、風邪、ひび、しもやけに効く。入浴剤にも適。



桔梗 (ききょう)

痰の切れを良くする。利尿作用、下痢、渋り腹に効果有り。



桂皮 (けいひ)

発汗、解熱、鎮痛、感冒に効く。また健胃にも効果があるので風邪の時に良い。



山椒 (さんしょう)

胃を快適に保つ。炎症を抑え利尿効果有り。いい香り。



丁香 (ちやうじ)

香辛料のクローブで知られている。お腹を温める、吐き気、シャククリに効く。

●お屠蘇のつくり方

味醂又は清酒に屠蘇散を浸す。(元旦の朝に飲むには大晦日の昼頃から浸し成分を出す)
※屠蘇散は漢方薬の店で購入できます。

今年の旧正月は
2月9日水です。

取材協力 / 梁川町港屋漢方薬局
貝津好孝先生

新春恒例こもれび にゅーいやーぷれぜんと

空とぶくじら主宰、三森修さんの愛情こもった作品、人気の干支組木シリーズです。どしどしご応募ください。



空とぶくじら
17年干支組木を10名様に

18号プレゼント当選者発表

●クイズの答えは「萩」でした。ご当選おめでとうございます。

- 「葉っぱのプロトチ」……斎藤妙子様(月館町)
- 「グリーティングカード タイの木もれび」……奈 栄子様(福島市)
- 「書籍葉っぱのフレディ」……川津知佳子様(千葉県)

やさしい工房モニター募集

「あなたはどんな野菜、どんな農産物、どんな加工品を食べたいですか?」原稿用紙400字程度に書いてお送りください。モニターに選ばれた方には「ふるさと便」セットをお送りし、セット内容等に関するアンケートにお答えいただきます。

※今回は月館町産のお米、漬物などの詰め合わせです。
投稿〆切〆3月1日到着分まで

つきだて花工房 ムーン講座絵手紙教室

開講6年目を迎える絵手紙教室。今年の年間スケジュールも決定しました。四季折々の花たちと会話をしながら自分自身と向き合う時間をつくりませんか!



(切絵画家 和田恵秀先生)

ひとりひとりの個性を大切にする教室です



(霊山町:菅野玲子様)



(福島市:五十嵐裕子様)

ムーン講座受講生募集

●絵手紙教室の日程
1月24日・2月14日・3月7日・4月18日・5月16日・6月20日・7月4日・8月29日・9月5日・10月24日・11月21日・12月19日
※講師は切り絵画家和田恵秀先生です。
※全て月曜日の開催となります。
※時間は午前10時から2時間程度です。
※受講料は1回1000円です。

INFORMATION 花工房からのお知らせ

●つきだて花工場の休館日
1月/11日(火)・12日(水)・13日(木)・14日(金)・18日(火)
2月/1日(火)・15日(火)
3月/1日(火)・15日(火)

●やさしい工房の営業
やさしい工房冬期間閉館中、交流館のオープン(4月中旬)とともに営業を開始します。



新年の書 松浦武夫氏 (つきだて花工房元所長)

編集後記

お正月恒例 80年の伝統を持つ箱根駅伝。往復216.4kmの道のりには数々のドラマが生まれます。母校の栄誉を襷につなぎ力走する若人たちの観るたびに、毎年胸が熱くなるのは、1本の襷に宿る魂が、チームの絆であったり、人を信じる心であったりするからかもしれません。

冬空の下建設中の交流館は、月館の四季、素朴な豊かさを共に楽しみながら、無くしたくない「モノ」や「コト」があることを伝えて行く所だと思えます。月館の風土や文化に誇りを持ち、その思いを次世代に繋ぐのは、この町の人々。襷を担い走る人、沿道で声援を贈る人、それぞれが絆を結び、信じる道を歩みたいものです。

ムーンセラピー 月の明かりで疲れた心を癒したい。 いますくカレンダーにチェック!!

[満月の夜] 1月25日(火) 3月26日(土) 2月24日(木)

[新月の夜] 1月10日(月) 3月10日(木) 2月 9日(火)

木もれ日通信19号
にゅーいやーぷれぜんと
応募券